

## 加ボ`アラチン+パ`クワタセル(Weekly)【婦人科】療法

### 注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		ア`キ注 等	副作用を予防するためのお薬です。(ア`キ注+デ`キ`ト注+ホ`ラミン注+ア`チ`ン注の4種類の薬剤が入っています)
2		パ`クワタセル注	治療のお薬です。 1日目、8日目、15日目に約1時間かけて点滴します。
3		加ボ`アラチン点滴静注液	治療のお薬です。 1日目に、約1時間かけて点滴します。

### 内服薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		デ`カ`の錠 0.5mg	副作用予防のお薬です。 2日目より3日間内服します。
2		シ`マ`の配合カ`セルB25	ビ`タ`ン剤です。しびれを予防する目的で毎日継続して服用します。

### 投与スケジュール

薬品名	日数																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
パ`クワタセル	↓							↓							↓													
加ボ`アラチン	↓																											

1 `ス : 3週間の治療です。通常6 `ス行います。

## TJ (Weekly) 療法【婦人科】

## よく起こる副作用

## ★アルコール酔い

**発生時期** 薬剤投与日のみ

**症 状** 今回治療で使用した薬剤には、薬剤の性質上、アルコールを多く含む薬剤を使用していますので、投与終了後に酔っぱらったような感覚になることがあります。今回の治療に含まれるアルコールの量は、約150～200mlのビールに相当するとされています。お酒の弱い方の中には、体からアルコールが抜けた後に二日酔いのような症状（頭痛や軽い吐き気など）が見られることもあります。化学療法をされた後は、車の運転・機械の操縦は避けましょう。

**対 処 法** ○アルコールが抜けるのを促すために、治療後は水分を多めに摂取するようにしましょう。

## ★骨髄障害

**発生時期** 薬剤投与日から7～14日後に減少します。

**症 状** 骨髄には造血細胞と呼ばれる白血球（細菌などから体を守る）、血小板（出血を止める）、赤血球（酸素を運ぶ）の元になる細胞があり、この造血細胞にお薬が作用して造血細胞に障害を及ぼすことを骨髄抑制（障害）といいます。骨髄抑制が起こると、白血球、血小板、赤血球の数が減少し、その働きも弱くなり、感染症や出血、貧血などの症状があらわれやすくなります。

<代表的な症状>

- 感染症：37.5℃以上の発熱・寒気・ふるえ・のどの痛み など
- 貧血：疲れやすい、めまい、立ちくらみ、動悸、顔色が青白い など
- 出血：紫斑（原因不明のあざ）、歯茎からの出血、鼻血、月経量の増加、血が止まりにくい など

**対 処 法** ○感染対策で最もポイントとなるのは、患者様自身の感染予防のセルフケアと感染の早期発見です。感染症をおこさないように、人ごみを避け、こまめにうがい、手洗いを行いましょう。白血球は一時的に下がっても、その後回復します。  
○貧血では症状の自覚のないまま、転んだりして事故を起こす危険もあります。日常生活では十分な休養をとりましょう。また、いきなり動かず、動き始めはゆっくりとするように注意して下さい。  
○血が止まりにくくなることがありますので、かみそりや爪きりのような鋭いものを使用する際には注意して下さい。打ち身や切り傷を作るような行為や激しい運動は控えるようにしましょう。歯ブラシも柔らかいものを使いましょう。  
○症状に応じて、薬剤の投与や、輸血をする場合があります。

## ★脱毛

**発生時期** 治療開始日から2～3週間後に始まりますが、治療が終われば必ず生えてきます。

**症 状** 徐々に抜け毛が多くなり、2ヶ月以内でほぼ抜けてしまいます。場合によりまつ毛や体毛も抜けることがあります。

**対 処 法** ○◎今のところ有効な防止策はありません。脱毛によるショックができるだけ少ないように髪を短くカットされておいてもよいでしょう。  
○◎市販のウィッグやバンダナ、帽子などで、おしゃれを楽しむ気持ちをお持ちいただけたらと思います。（ウィッグに関する資料については、看護師にご相談ください。）  
○◎実際に脱毛が始まったら、寝ている間に抜けた髪の毛が散らばらないようにキャップをかぶるなど工夫をしましょう。  
○化学療法中は頭皮も敏感になっていますので、シャンプーやブラッシングの回数を減らしたり、長時間のドライヤーは避けて下さい。

## ★悪心・嘔吐および食欲不振

## ★悪心・嘔吐および食欲不振

**発生時期** 薬剤投与日～5日目位まで  
※まれに、以前の化学療法後の嘔吐の体験が影響し、点滴の数日前からおこるものがあります。

**症状** 食欲が落ちたり、味覚の変化、においに敏感になったり、胃が重たく感じたりします。ときどき吐くこともあります。

**対処法** ○治療の前に吐き気止めの注射を行います。症状によっては吐き気止めの内服薬を服用することもあります。  
○脱水をおこさないように水はこまめにとるように心がけましょう。  
○吐き気があるときは無理して食べる必要はありません。口当たりのよいものを少量ずつとりましょう。  
○吐き気が強く食事できないときは、栄養や水分を点滴で補給することもあります。  
○事前に吐き気止めの薬を点滴あるいは服用します。症状がでた後に、吐き気止めの薬を追加することもできます。

## ★末梢神経障害

**発生時期** 治療開始日から2～3日後にあらわれることがあります。通常数コース投与後に発現することが多いです。

**症状** 指先や足のうらがぴりぴりする、感覚がにぶくなる、しびれや痛み等の症状が起こります。

**対処法** ○症状がひどくならないように早めに対処します。  
○症状がひどいときには、漢方薬やビタミン剤が使われることがあります。またお薬を減量したり、治療をお休みする事もあります。  
○転倒に注意しましょう。熱いものや刃物を扱うときにはけがをしないように十分注意しましょう。

## 頻度は少ないが注意を要する副作用

### ★血管外漏出

**発生時期** 薬剤投与中～数日後

**症状** 注射をしている時に針が入っている部分を中心に、皮膚がはれ、赤みを帯びたり痛みを生じたりします。薬剤によっては、初めは軽い痛みでも、徐々に痛みが増し数日後には激痛を伴う水疱に増悪する場合があります。

**対処法** ○注射がもれた場合には速い対処が必要となりますので、ご自身でも異常がないか観察し、針を刺している部分に違和感や浮腫、痛みや発赤などありましたら、すぐにお知らせください。  
○投与中は針を刺している腕をあまり動かさないようにしましょう。  
○帰宅したあとに針をさした部分に痛みや腫れが現われた場合にも、病院に連絡してください。

### ★アレルギー反応(過敏症)

**発生時期** 薬剤投与中～2.3日後まで  
特にアナフィラキシーショック(ごくまれな重篤なアレルギー反応)は投与5～10分以内が多い。

**症状** そう痒(かゆみ)、紅潮(あかみ)、じんま疹、鼻閉(はなづまり)、咳、くしゃみ、吐き気・嘔吐、腹痛、浮腫(むくみ)などがあります。  
アナフィラキシーショックのような重症な場合は、血圧低下、呼吸困難(息苦しい)、喘息、喘鳴、不整脈などがあらわれます。

**対処法** ○アレルギー反応のおそれがある場合は、治療薬を投与する前に過敏症を防ぐ予防薬を使用します。  
しかし、投与中や投与後にこうした異常を感じたら、すぐに知らせてください。

## その他の副作用

### ★ その他

★ その他

**症 状** 便秘、下痢、倦怠感、関節痛・筋肉痛、口内炎、味覚異常、色素沈着など

**対 処 法** ○症状に応じて対症療法を行います。

副作用は薬剤ががん細胞を攻撃するときの一部の正常の細胞にも影響を与えてしまうことにより起こるものです。

もちろん正常な細胞は治療が終わればもとに戻りますし、副作用も少しずつ回復します。

**副作用の出かたや、程度は個人によってさまざまであり、副作用の全てが現れるとは限りません。**

大事なことは予想される副作用を十分理解し、その対処をすばやく行うことです。そして副作用があらわれた場合はもちろん、それ以外でも気になることがありましたらどんなことでも、主治医や看護師、薬剤師に相談して下さい。

医療法人敬愛会 中頭病院（薬剤部）

